

福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

新任挨拶



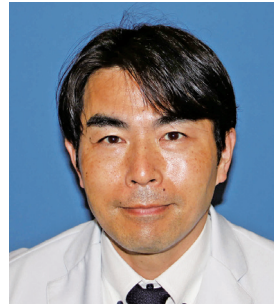
副院長兼看護部長
二丹 玲子

令和6年4月1日付けで、副院長兼看護部長を拝命いたしました二丹玲子（にたんれいこ）です。当院は、福島県唯一の大学病院であり、高度急性期医療や先進医療を担う特定機能病院です。福島県の救急医療や災害・被ばく医療、子ども医療などあらゆる医療分野の中核となっております。

看護部においては、「県民の健康を守るため豊かな人格と感受性を持ち、質の高い看護を提供します」という理念のもと、患者さんやその家族の思いを尊重した温かみのある看護を基盤に多職種や地域と連携した切れ目のない看護を提供しています。

高度・先進医療に対応した質の高い看護を提供することはもちろんのこと、患者さんの意思を尊重し、温かみのある看護を提供できる組織、心理的安全性が担保できる職場風土、専門職として自らを高め仕事にやりがいを持って働けることができる組織運営を目指しています。また、看護師一人一人が自分の看護を追求し、キャリアを積んでいけるよう病院全体で教育プログラムを整え、専門職として自信をもって看護が実践できる看護師を育成していきたいと考えています。

それらを実現していくことで、当院が果たす使命の一役を担い、患者さんの健康に寄与していきたいと思っております。皆様のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。



リハビリテーション科部長
リハビリテーションセンター部長
林 哲生

令和6年6月1日付けでリハビリテーション科部長・リハビリテーションセンター部長を拝命しました林哲生（はやしつお）と申します。これまで福岡県にある総合せき損センターで脊髄損傷のリハビリテーション診療に携わってまいりました。

私は、完全麻痺の患者さんが上肢の残存機能を駆使し、車いすにより日常生活動作の自立・社会復帰を果たす姿に感銘を受け、リハビリテーションを志しました。今まで、ロボットリハビリテーションや摂食嚥下リハビリテーション、四肢麻痺や呼吸障害のリハビリテーション医療にも力を入れてまいりました。

福島医大病院では、さまざまな優れた治療が行われていますが、適切なリハビリテーションを施すことで、その治療効果を加速し最大限まで引き延ばすことができます。治療効果を高めるにはチーム医療も重要であり、各診療科の医師やセラピスト、看護師や医療技師の力を協調させることがカギとなります。院内の総力を結集し、幅広いリハビリテーション治療で多くの患者さんのお力になればと思っています。

また、リハビリテーション医学は発展途上で今後が期待される分野です。最新機器や医用工学の連携、さらに復学や復職などの社会復帰や障がい者スポーツなども魅力ある課題として取り組み、より良い医療の提供を目指していきたいと思っております。

第66号のなかみ

1 ページ…○新任挨拶

2 ページ…○福島県の脳死下臓器提供体制の拡充を目指します
○マイナンバーカードを健康保険証として利用できます

3 ページ…○生殖医療センターの紹介

4 ページ…○「けやきの会」新会長ご挨拶

○きいてください 院長さん
○トピックス ~新しい風~

マチのほっとステーション
LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）

病衣・タオル・紙おむつ・日用品・付添寝具

手ぶらで入院・手ぶらで退院
入院セットレンタル

お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口
024-548-8777

* 院内1階、入退院受付横 9番窓口
月～土曜日 9:00～17:00（日祝祭日休）
土曜日はきぼう棟1階ローソン南側にて営業します。



当院は令和6年6月1日より、福島県の脳死下臓器提供体制のさらなる拡充を目指し、移植医療部内に移植医療支援室を開設しました。

全国の臓器移植を行う医療機関では、脳死と判定された患者さんの生前の意思などに基づき、移植でしか治すことができない患者さんへ臓器が提供され、多くの命が救われています。当院においては平成29年に移植医療部を設立して以降、院内の臓器提供体制の整備に重点を置いてきましたが、このたびの移植医療支援室の設置により、今後は県内の他施設にも視野を広げた活動を実施していくこととしました。

移植医療支援室の活動で最も重要な点は、専任のコーディネーターを配置し、脳死下臓器提供について県内の他施設との連携を促進するとともに、当院が持つノウハウを活かした支援を行うことです。具体的には、「脳死ドナー（臓器提供者）発生時の情報共有」「各施設の臓器提供体制の整備」「関係者の教育・研修や連携施設との定期的な会合の開催」「医師・看護師などの派遣体制の整備」など

が挙げられます。

患者さんやご家族が臓器提供を希望していても、医療機関の体制が整っていないければ、その想いを叶えられないことも起こり得ます。臓器提供を希望される患者さんご家族の想いをつなぐため、県全体の脳死下臓器提供体制の拡充を進めてまいります。



移植医療支援室のスタッフ一同

マイナンバーカードを健康保険証として利用できます

医事課

現行の健康保険証については、令和6年12月2日に廃止され、マイナンバーカードを健康保険証として使う「マイナ保険証」に1本化されることが閣議決定されました。

これに対応するため、当院では5月までに各診療科外来の受付へマイナ保険証のカードリーダーを設置し、マイナ保険証をご利用いただける環境を整備しました。

マイナ保険証をご利用いただくことによって、過去の処方薬や特定健診(40歳以上75歳未満を対象とするメタボリックシンドロームに着目した健

診)の結果を当院の医師や薬剤師が正確に把握することができるため、患者さんはより質の高い医療を受けることが可能となります。また、高額療養費制度を利用される場合には「限度額適用認定証」の交付を受けることなく限度額の確認ができるなど、手続き面でも患者さんにメリットがあります。(いずれも患者さんからの事前同意が必要です)。

下記のQRコードからマイナ保険証の使い方を動画で確認できますので、ご覧ください。

これを機に、ぜひ、マイナ保険証をご利用ください。



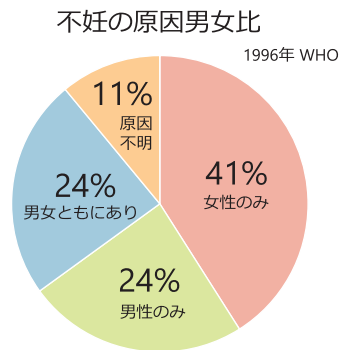
簡単だから
使ってみてね!

マイナ保険証
の使い方動画
はこちら→

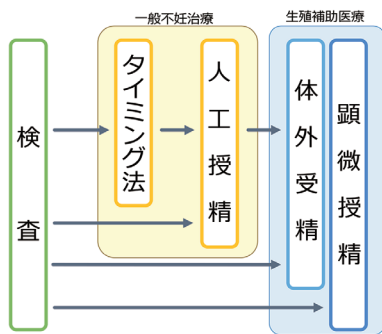


平成31年4月に開設した生殖医療センターは、今年で6年目を迎えました。

生殖医療のステップとして、まず子どもができない原因を探ることから始まります。原因の可能性は男女問わずどちらにもありますので、ご夫婦揃って検査を受けていただくことが重要になります。一般的にはタイミング法や人工授精といった一般不妊治療からのスタートとなりますが、検査結果を踏まえて初めから体外受精や顕微授精といった生殖補助医療が必要になってくるケースもあります。



生殖医療の治療指針



また当センターでは、がんなどの治療前に卵子や精子、受精卵などを凍結し、将来子どもを授かれる可能性を残しておく妊孕性温存療法も実施しております。妊孕性温存療法では基本的に、抗がん剤や放射線治療が始まるまでに卵子や精子を保存する必要があります。短期間での意思決定は患者さんにとって大きな負担となりますが、原疾患の診療科などとの連携を図り、適切な情報提供を行いながら治療方針の決定に繋がっています。

当センターでは患者さんが納得して治療に臨めるよう、医師（産婦人科・泌尿器科・がん治療医など）、胚培養士、看護師、不妊カウンセラーなどの多職種による多角的なサポートを行っています。一人でも多くの患者さんのお役に立てますよう、今後もスタッフ一丸となって診療に取り組んでまいります。

●赤ちゃんを望む方に向けた相談窓口があります

不妊専門相談センターは、不妊症や不育症で悩んでいる方の悩みに対応するため、全国に設置されている専門窓口です。県内では当センターがその役割を担っており、妊娠前・妊活中の時期を県民の皆さんに少しでも安心して過ごしていただけるよう、各地域の行政担当窓口と連携を取りながらサポートを行っています。

不妊症や不育症はデリケートな問題であるがゆえに、当事者は周囲に相談しづらい傾向にあります。「なかなか子どもができないけれど、どうしたらいい?」「検査を受けたけれど、今後どんな感じで治療が進んでいくのだろうか?」「夫婦間で意見が合わない」「今の治療方針で大丈夫だろうか?」「辛い気持ちを理解してくれる人がいない」など、治療前から治療終結に至るまでのどのステップにいる方でも男女問わず様々な悩みを抱えがちです。些細なことでも結構です。誰かに話を聞いてもらうことで心が軽くなったり、次の一歩に繋がったりするかもしれません。お住まいの地域の県保健福祉事務所(中核市にお住まいの方は市役所)が相談受付窓口となっておりますので、疑問や不安に思うことがございましたら一人で悩みを抱え込まず、まずはお気軽にご連絡ください。一つ一つのお悩みに対し、各地域の保健師などが面談またはお電話にて対応いたします。より専門的な話を聞きたいという場合には、生殖医療専門医や不妊カウンセラーに相談することも可能です(完全予約制)。なお、いずれも相談費用は無料です。皆さまのお悩みに寄り添い、最善の選択ができるようサポートいたします。

相談員	日時	方法
保健師等	平日 8:30~17:15	電話相談・面談相談
医師(生殖医療専門医)	毎週木曜日 13:30~16:30	電話相談・面談相談
不妊カウンセラー	毎週水曜日 10:00~12:00 13:30~16:00	電話相談・オンライン相談



ご予約についてのご案内は福島県のホームページをご覧ください。

毎年秋頃には、県民の皆さんに生殖医療について興味を持っていただけるよう、生殖医療の基礎を学ぶウェブセミナーを開催しています。また、県内各地域での出張相談会も開催していますので、相談に行きたいけれどなかなかチャンスがない、という方はぜひご活用ください。

FUKUSHIMA NIIDA MODEL HOUSE No.57

UNNO HOUSE ☎0120-36-1131

共に働く仲間を募集します!
正社員(1年更新有)・パート同時募集

■入院会計・診療報酬請求業務

勤務場所/福島県立医科大学附属病院
勤務時間/8:30~17:15(昼休憩60分)7時間45分勤務
給 与/300床以上5年以上の実務経験者 月:180,000円(手当含む)+交通費
上記以外の場合 月:160,000円(手当含む)+交通費
賞 与/年2回・4カ月支給
福利厚生/資格取得に関する補助金制度有

経験者大歓迎!未経験者でも、あなたのやる気をお待ちしております。
先ずはお電話ください☎024-548-0800(担当/高畑・岩倉)

創業52年、安心して働ける 東京医療化学株式会社
職場づくりを目指しています

「けやきの会」新会長ご挨拶 病院ボランティア 齋藤 三男

病院ボランティア「けやきの会」の齋藤三男（さいとうみつお）と申します。震災の前年である2010年10月より「けやきの会」に所属し、今年で14年目となりました。現在は月4回活動しております。ご縁があり、今年度より会長を務めさせていただくこととなりました。

今までの活動の中で、体調がすぐれない患者さんや、困りごとのある患者さんのお力になることができた経験の一つ一つが、大変かけがえのないものとなっています。

「けやきの会」は、車椅子移動の介助、院内の案内

などの活動をしています。お困りごとがありましたら、緑のエプロンを着けた「けやきの会」会員にお気軽にお声がけください。

最後に、年齢（よわい）80を越えた身ではありますが、これからも医大病院にいらした皆さんを見守るべく、会長として努めてまいります。



←齋藤さん(中央)と「けやきの会」の皆さん



きてください 院長さん —より良い医大病院にするために—

いただいた御意見

「休日の面会受付が混雑しています。受付開始前に面会者体調確認表を記入することは可能でしょうか。」

⇒ 14時の受付前から配布することとしました。また、記入台を2ヶ所から4ヶ所に増設し、混雑の緩和に努めていきます。

「退院後の栄養管理が心配です。病院食の献立表を頂けませんか。家に帰ったら参考にして食事を作りたいです。」

⇒ ご要望があった献立表を郵送いたしました。

トピックス ～新しい風～

令和6年4月、新たに66名の職員が福島県立医科大学に加わりました。研修の一環として、病院長から、当院の基本理念「当病院は、健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩みます。」について学びました。患者の皆さまに寄り添った医療を提供するため、職員一丸となって励んでまいります。本格的な夏がすぐそこまできております。皆さまにおかれましては、くれぐれもご自愛ください。

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやバスター、サンドイッチをお楽しみいただけます。

すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日【午前の部】9:00から11:30
【午後の部】12:30から15:00

電話 024-548-5331 受付時間：平日 9:00から11:30
12:30から17:00